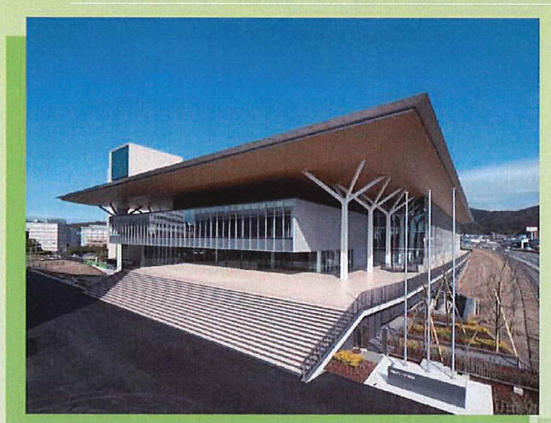
FUNDRAISING NEWS

「第 29 回福岡市都市景観賞」建築部門賞を受賞！

「大楠アリーナ 2020」が、福岡市主催「第 29 回福岡市都市景観賞」の建築部門賞に選ばれました。

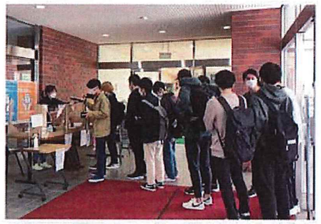


1987年に創設された福岡市都市景観賞は、「ランドスケープ」「建築」「広告」「活動」の4部門で福岡のまちの魅力を創り出している事例を表彰し、市民に景観に対する意識を高めてもらうことを目的とするもので、本学キャンパスが2016年度にランドスケープ賞を受賞しています。審査委員からは、福岡市の東の玄関口としての象徴的な景観と、大学キャンパスらしい学生の活動が表出するヒューマンスケールな風景が共存する都市景観が高く評価されました。約5,000人を収容できる新体育館「大楠アリーナ2020」は、本学創立60周年記念事業として2020年3月に完成しました。

学生の活動や地域の方々のスポーツ大会に加えて、大規模災害時には地域の避難場所としての機能も有しています。大楠アリーナ 2020 建設に際し、多くの皆様にご支援を頂き、誠に有難うございました。

～新型コロナウイルス感染症対策等への支援～

同窓会や後援会と連携し、新型コロナウイルス感染症対策への学生支援の一つとして、学生食堂のテイクアウト商品に対する購入支援（１食上限 200 円）を実施しました。食堂等での三密を回避するため、屋外で食事を楽しみながら、多くの学生が利用しています。皆様の温かいご支援に本学一同厚く御礼申し上げます。



ひとり暮らしのため、
学食のテイクアウト商品は
とても助かりました。
ご支援有難うございます。

井上 結貴 さん
経済学部　経済経済公共クラスター
2022 年卒
（東海大学付属福岡高校）

登録無料

メールマガジン ・ LINE はじめました！

各分野で活躍する九州産業大学・造形短期大学部の今をタイムリーにお届けします！

九産大メールマガジン
九産大メルマガ　検索

LINE 公式アカウント
九州産業大学 Friendship

各界で活躍するOB・OG紹介

活躍するOB・OGを事務局にお知らせください。

OB紹介　新川 久三(旧姓:木村)（あらかわ ひさみ）1965年 商学部・経済学科入学

●築上町長

入学時の九州産業大学は商学部と工学部の2学部で、翌年に芸術学部が開設されました。私は4年間電車で2時間30分かけて通い、一時限目は9時10分からでしたので日豊本線築城駅6時40分の列車で鹿児島本線小倉駅乗り換、8時の快速列車で香椎駅まであとは徒歩の毎日でした。二年間で選択科目の単位数は取得、残りの2ヶ年は必須科目3科目ずつ楽な単位取得でした。授業で思い出すのは経済学の有沢貞夫先生・相原陽先生、経済史の武野恭子先生、経営学の笹渕正三先生等が浮かんでまいります。昨年暮れ閉園になった香椎花園にもよく行き、また西鉄ライオンズの二軍の専用スタンドの香椎球場にもウエスタンリーグをよく見に行きました。

卒業後は椎田町役場に奉職し、30年間職員、54歳で椎田町長に当選、合併後の築上町長に就任して現在に至っています。役場では何事も好奇心を持ちながら法令、地域の歴史等の勉強をして地方自治に携わって来ました。この事で有名大学出での国家公務員、県職員等と対等にお話が出来るようになりました。

大学の4年間の学習を基礎に、50年間の公務員として地域のために尽くせて大変光栄に存じ、今後も地域のために頑張ります。

プロフィール

福岡県築上町に75年間在住。1965年築上中部高校卒。1969年椎田町役場奉職。2004年から椎田町長経て椎田町。築城町合併で築上町長と町長職20年。

OB紹介　谷 昭佳（たに あきよし）1990年 芸術学部・写真学科入学

●東京大学史料編纂所 史料保存技術室にて写真資料を担当

中学・高校と不登校を経験し、人とは違う何かを求めて写真学科に入学しました。はじめは自己表現や自己実現を求めて作品づくりに没頭していましたが、やがてある授業のなかで、人間ひとりの小さな頭で考える世界の狭さ、世界は様々な要素が複雑に絡まって成り立っていること、そして自分はその関係性のなかにしか存在しないことに気づきました。本を読むこと旅に出ることだけでは得られない、写真制作を通して世界と向き合い受け入れることで見えてくる新たな意味。その結果として、写真作品を通して見知らぬ誰かと深いコミュニケーションが成り立つことに強い衝撃を受けました。ここに私の写真探究の原点があると思います。

大学で写真という人生の幹を得てからは、作品制作だけでなく、様々に枝を伸ばしてきました。まず学芸員という立場からアートとしての写真に関わり、次に歴史学の研究所にて、国内外で幕末明治の写真史研究と文化財としての写真保存に従事してきました。次世代に引き継ぐために、確かな技術と論理の裏付けが必要となる文化財写真を前にして、ときに学生時代の授業ノートを開いて、今も「写真とは何か」を自問し原点回帰しています。

プロフィール

1969年岡山市生まれ。1996年大学院芸術研究科写真専攻修了。1998年より植田正治写真美術館にて学芸員として勤務。2000年に東京大学史料編纂所に文部技官として転出。2007-2008年には文化庁新進芸術家海外留学制度により、オランダ・ライデン大学に客員研究員として滞在。2018年に同文化庁研修により、イギリス・V&A博物館他にて写真史の研究調査に従事。主な写真活動歴：2004年日本写真芸術学会奨励賞受賞、2009年個展Photo Map, Ancién Cinema（ルクセンブルク）の開催、2018年共編著書 *Japan in Early Photographs*, Arnoldsche（ドイツ・EU圏）の出版、2021年日本写真協会賞学芸賞の受賞がある。

OB紹介　中尾 中（なかお あたる）1995年 商学部・商学科入学

●弁護士（中尾中法律事務所）

この度は,自己紹介をさせていただき大変光栄です。楠風会佐賀地方本部に在籍し,佐賀県武雄市にて弁護士業を営んでおります。在学中は情けないことに自分の途が見つけられず,卒業後アルバイトをしながら,6回目の司法試験でどうにか合格できました。その後は楠風会の先輩方のご厚意もいただき,一歩一歩ではありますが,堅実に仕事を続けています。気が付けばもう13年目です。

仕事は主に身近な法律問題に取り組んでいます。交通事故,相続,後見人,離婚などなど。刑事事件の国選弁護人も積極的に担当しています。もし無実の罪で捕まっている方だとしたら,この世で一番困っている方です。かっこよく言えば,そんな方の力になりたい,と思いこの途を選びました。もっともこれまでに2回,冤罪を晴らせませんでした。戒めとして心に刻み仕事に臨んでいます。

とは申しましたが,堅物ではありません。モットーとしては,依頼者の方と同じ目線に立って,納得していただける解決を常に目指しています。何か少しでもお悩みなことがあれば,当職までお気軽にご相談ください。

プロフィール

1975年横浜市生まれ。間もなく福岡市へ転居。2009年9月弁護士登録。2016～2018年度佐賀県弁護士会副会長。

OG紹介　平野 綾菜（ひらの あやな）2007年 国際文化学部・国際文化学科入学

●フリーアナウンサー（司会者事務所 Office AYANA）

日本の魅力を学びたいと国際文化学を専攻し,アナウンススクールとのダブルスクールをしながら,英語教員免許取得に向けて励む大学生活は,忙しくも充実していました。「興味を持ったことは何でもやってみよう!」と様々な資格取得にも励みました。挑戦したアルバイトは数知れず。すぐ思い出せるだけで,ファーストフードにアパレル,学習塾,ナレーター、モデル,MC,ラジオDJとたくさんの社会勉強をさせていただきました。放送局での勤務経験を活かし,現在は司会者として活動しています。番組・式典・学会などのアナウンスやイベント進行を司る役割を担っています。進行や時間管理だけではなく,その場の雰囲気を演出し,トラブルに瞬時に対応するべく,お客様の叶えたいご希望に真摯に向き合うことが私の使命です。中でも,母校の「オープンイノベーションセンター　オープニングセレモニー」の司会を担当させていただいたことは感慨深く,コロナ禍での開催のため,試行錯誤しながらスタッフや学生の皆さんと作り上げたことは特別な思い出です。これからもひとつひとつのご縁を大切に,私にできる精一杯のお手伝いを続けていく所存です。

プロフィール

福岡県出身 2007年 福岡県立香住丘高校 卒業。2011年 九州産業大学国際文化学部国際文化学科 卒業後,唐津ケーブルテレビジョンにて勤務（広告制作とアナウンス業務,日本ケーブルテレビ連盟九州支部事務局を兼務）FM福岡での勤務を経て,2013年独立。FM福岡・LOVEFM中継リポーター、サガテレビのスポーツ番組、FM佐賀で朝番組パーソナリティなど経験。福岡県や福岡市など、県内外の自治体が主催する式典・イベントMCを始め,企業様の周年行事の司会等を仰せつかる。配信アナウンスや教育機関・安全大会などでの講演等も担当している。